

令和6年第1回天草市総合教育会議（会議録）

1 期日 令和6年5月24日（金）午後2時～午後3時50分

2 場所 天草市役所2階 庁議室

3 出席した委員等

市長	馬場 昭治	教育長	石井 二三男
委員	木下 えり子	委員	行合 八恵子
委員	吉森 啓司	委員	池崎 教授
委員	平道 千春		

4 出席した事務局職員

教育部長	平野 貢司	教育総務課長	本多 俊隆
学校教育課長	福田 稔	生涯学習課長	西崎 正和
学校給食課長	緒方 勇人	学校教育課審議員	松本 祥司
教育総務課総務企画係長	松下 美紀	教育総務課施設係長	正村 謙一
学校教育課課長補佐	伊形 英朗	学校教育課教務係長	盛田 達矢
生涯学習課生涯学習推進係長	坂本 真理子	生涯学習課中央図書館庶務係長	吉田 悅子
学校給食課管理係長	袋田 一貴	学校教育課参事	松下 智恵
学校教育課参事	濱田 祐輔	教育総務課参事	松本 智明

5 議題

（1）協議・調整事項

- ①令和6年度の主な取組みについて
- ②体験学習の島づくりについて

（2）報告事項

- ①不登校・いじめ問題等の状況について

6 会議の概要

（1）開会

- ・開会に先立ち、事務局から傍聴者の報告を行った。（傍聴者なし）

（2）市長挨拶

- ・馬場市長から挨拶があった。

（3）協議・調整事項

①令和6年度の主な取組みについて

- ・資料1により、教育総務課長、学校教育課長及び学校給食課長から本年度の主な取組みを説明。

＜質疑・応答＞

○小中学校の今後の在り方について

吉森委員：小中学校の今後のあり方について、令和5年度のアンケートで、今後、考える必要があるという回答であったのは、本渡地区が大体20%、割合が高かったのが牛深・倉岳・新和の3地区で50%を超えていたと思う。

以前、天草市が合併する前に統廃合の審議会に携わったが、答申の後に保護者の方から

いろんな声が上がってきた。答申が出た後ではどうにもならないと説明した。

私自身は、できれば統合は望まない。なぜかというと天草市の教育振興基本計画の基本理念である、歴史や文化などを継承して、島独自の文化を大切に育んでいくという教育理念、その意味からすれば、予算的にも厳しいかも知れないが、できるだけ統合は行わず、今の体制を維持できるところまで維持した方が良いと考える。

学校規模適正化等の検討会議を地域で立ち上げる場合、できるだけ幅広い年代から意見を聞くよう、会議の人員・構成に配慮してもらいたい。

木下委員：人口減少と少子化は、天草市だけの問題ではなく、どこの地域でも抱える課題である。

御所浦に行く機会が多く、御所浦の方々とよくお話するが、統合については自分たちの意見を持っておられる。

吉森委員の意見にもあったが、地域の方々の思いを十分考慮しながら進めて欲しい。

行合委員：なかなか難しい問題だと思う。令和5年度か4年とかの調査で、各町（地区）の出生数は6人とか7人とか、本渡地区でも200人くらいである。

地域の方々の思いを聞きながら丁寧に協議する必要があるのではないか。

教育総務課長：本市の年間の出生数は400人を切っており、今後さらに1クラス当たりの人員が減少するということは現実的に考えられる。

保護者からのアンケートの結果では、なるべく統合しない方がいいという意見と、統合した方がいいという意見の両方があった。

合併前の審議会については、（本渡地区の）統合を前提とした審議会であったが、今回は、その前の段階で、検討会を立ち上げ、保護者や各種団体などの意見を幅広く聞きながら、少しづつ意見を集約して進めていきたいと考えている。

○小中学校の空調設備改修工事について

木下委員：小中学校の体育館に空調設備を設置されるところで、本当にありがたい。

児童生徒の熱中症のリスクが解消され、また、体育館は災害時の避難場所にもなっているので、本当に感謝している。

吉森委員：柔道の関係で天草市の武道場によく行くが、近年はあまりにも夏の大会とか暑すぎて、できれば小中学生が使用する武道場にも空調設備を整備してもらいたい。

できないようであれば、せめてスポットタイプのクーラーとか送風機とかがあれば、それだけでも大会や練習のときに助かるのでご検討いただきたい。

馬場市長：学校施設以外の施設で、大会を誘致したりするような体育館においても、現在、空調設備の検討を進めている。

もちろん一度にはできないので、優先順位なども考えてスポーツ振興課に検討を進めるように指示している。

委員からの意見のように、クーラーができないならスポットクーラーや送風機など、競技にもよるが、その辺りも併せて検討させていただきたい。

○学校給食に係る地産地消の取組み等について

石井教育長：米は全て天草産か。目標の地産地消率には米を含むのか。

学校給食課長：米に関しては全て天草産である。目標の地産地消率には米も含んでおり、量は多いが品目ベースだと1品目として扱う。

馬場市長：品目ベース、カロリーベース、金額ベースのどれか。なんとなく低い感じがして。

教育部長：これまで品目ベースが基準であったため、計画を変更し、品目ベース以外に金額ベースでも表示するよう見直しを行っている。金額ベースの数字は20.5%である。

行合委員：地産地消の取組みは地域経済の活性化にも貢献すると思われるが安定した供給が必要。農家と直接契約されるのか。品目ベースで25.8%を目指すことだが、どのように取組みを進められるのか。

学校給食課長：地産地消の供給体制については、今年度から経済部と連携をして取組みを進めていく。その中で、例えば本渡センターで1日にじゃがいもを100キロ使うとして、その量をどうやって確保するのかということが課題になる。経済部には、契約農家を含め、安定して供給できる体制づくりをお願いしているところであり、本年度から来年度にかけて取組んでいきたいと考える。

馬場市長：給食に関する地産地消については、それだけの量を購入するという見込みはあるが、農業振興課とも協議するなかで、契約栽培も含め、必要な量をどうやって確保するかという検討を進めるなかで、実はこれが簡単でないことがわかつてきた。要は1年間ずっと、じゃがいもとか玉ねぎとか、地元のものだけでその量を確保することはなかなか難しい。流通やストックなどいろいろな課題がある。我々としてもできれば、農家の皆さんができるだけ近くで、天草で消費してもらえるような仕組みづくりができれば、多くの人の幸せにつながると思っており、引き続き検討を進めたいと考えている。

木下委員：天草市の給食センターでは、アレルギー食への対応もしていただいて感謝している。天草産食材の日については、子どもたちにとっても、地域理解・地域愛につながる。給食材料費への補助については、1食当たり30円程度ということで、年間6000円ぐらいになるかと思うが、保護者の負担軽減につながり、ありがたいと思う。

馬場市長：給食費無償化については、議会でも様々な意見をいただいたが、私は、これは本来、国がやるべきものだと思っている。仮に天草市で給食費無償化を行うなら約3億円の費用がかかり、今回はそれより優先すべきことがあると考え、保育園の無償化、3歳児未満の無償化、入学等祝い金の創設などの事業を進めさせていただいた。ご報告まで。

○学校給食センターの民間委託について

行合委員：学校給食センターの民間委託について、有明と天草はまだ民間委託ではないが、今後の展望など、どのようにお考えか聞かせていただきたい。

学校給食課長：有明と天草の給食調理場についても、いずれは民間委託をしなければならないと考えているが、その時期は未定であり、検討中である。

○ICT整備事業について

行合委員：ICT整備事業について、児童の認知特性に応じた学習支援、小学生用の支援ソフトとあるが、認知特性というのは、子どもの様子を見ながらソフトが判断するということか。

学校教育課教務係長：認知特性というのは、日本語を読む、聞く、見る、確認する、認識するという能力で、基本的に難易度はそれぞれだが、同じような問題をまず解いてもらう。

そして、中のプログラムで、この子はこの特性が弱いとか、この特性をもっと伸ばした方がいいとか、そのソフトのプログラムの中で、この子にはこのプランが最適だろうという提示をしながらその子の弱点を伸ばしていくような形になっている。

また、今回、中学校に導入するeライブラリーはAIドリル集であり、こちらはAIがその子に応じた問題集を自動的に生成し、提案しながら学力を伸ばしていくというものになる。

行合委員：今回のソフトの導入が子どもたちの復習とかにも活用されると思うが、子どもたちの技術がアップするようなソフトをもっと取り入れていただけたらと思う。

木下委員：全校一斉や学年ごとの端末持ち帰り日とあるが、これまで子どもたちはタブレットの持ち帰り等はしていなかったのか。

宿題とか自主学習とかに端末を活用していなかったのか教えて欲しい。

学校教育課審議員：家に端末を持ち帰って中に入れた宿題を解いてくるということは、これまでやってはいたが、積極的に取組むところとそうでないところの学校間での差があったため、一斉に持ち帰る日を設定するものである。

今回、リーディングDXのいくつかの重要項目の中に、端末を持ち帰り、家庭でも家庭学習と連携していくという項目があり、力を入れようと考えている。

○ICT活用教育・支援員について

行合委員：ICT活用教育は、将来社会で活躍する子どもたちにとって不可欠である。

学校訪問や授業参観で、子どもたちのタイピング技術や活用方法が非常に向上していると感じるが、タイピングの練習は、総合の時間に行っておられるのか。

学校教育課審議員：タイピングの練習は、朝の自習時間、休み時間、家に持ち帰ったときなど、端末でもソフトは自由に使える状態であるため、そういう隙間時間に取組んでいるところである。

行合委員：ICT支援員の方々の対応が、初期に比べとても良くなつたと感じる。

生徒への支援対応がより適切に、スムーズで的確な支援が行われている。

初期には充電切れの問題もあったが、今ではほとんど見られなくなった。

生徒たちの機器の活用技術の向上を感じており、ICT活用教育が教師・生徒に浸透してきていると思うが、まだ苦手感からか授業での活用が少ないと感じる。

教師のICT活用技術力アップの体験学習研修会を見たことがあるが、天草市では先生方の技術アップのための研修会などは予定されているのか。

学校教育課：ICT支援員は、当初、令和3年度のときは2人であったが、現在は4人体制で全員が天草市在住の方である。

もともと天草に理解がある方がICT支援員として活動されており、学校へ馴染みやすいというか、そういった部分がうまく機能しているのではないかと感じている。

また、毎年実施しているアンケートでは、98%の先生がICT支援員に好意的な評価をしていただいている。継続して取組みを進めたい。

充電は、各学校で充電切れがないよう使い方を工夫されているのではないかと思う。

タブレットの扱いなど教師の技術力アップ研修は予定していないが、公開授業とか研究主任会等の機会に授業でどのように活用するかをみんなで考えたり、公開授業研究会を

予定している。

また、8月の夏休みにGoogle for Educationの研修を計画しており、これはGoogle 合同会社の方をお招きし、Google の汎用型ソフトウェアでこういうことができる、こう使い方ができるというのを、演習形式で体験しながら使い方を教えていただく研修である。

○リーディングDXスクール事業について

木下委員：小中学校のICT整備事業、リーディングDXスクール事業においても、東京学芸大学の堀田教授に指導・アドバイスをいただきながら推進していくというのが本当にありがたい。

石井教育長：お話をいただいたときは、県に対して、天草市はまだそんな段階ではないと伝えたが、県の方からもアドバイスをいただきながら申請を行った。

ひとつは、先生たちの技術というか意識を上げていかないといけないという思いがある。個別最適な学びと共同的な学びといいわゆる児童生徒の主体的な学びの中で、全て端末で授業をやるとかそういうことではなく、数時間に1回ぐらいでもそういう授業をやってみようと、チャレンジしていこうということを念頭において取組みたい。

先日は、本渡南小学校で（県の）教育政策課から4名ほど来られて授業を見てもらった。まだまだ課題はあるかと思うが、本渡南小学校の授業の後でも堀田教授には、何人かはトップクラスを行くような授業をしているとメールを送った。

また、4月29日の忙しい時ではあったが、研究主任の意識向上を目的としたスタートアップ研修を行った。

県内では、他に高森町、山江村及び熊本市が取組んでおり、他から見れば遅れているかもしれないが、少しずつ丁寧にやっていけたらいいなと思う。

DXに取組むことで子どもの成績向上につながるのかと意見される先生もおられるが、すぐに成果ができるわけではなく、新しいことに挑戦することも大事だと話している。

②体験学習の島づくりについて

・資料2により、教育総務課長、学校教育課長及び生涯学習課長から本年度の取組み等を説明。

＜質疑・応答＞

○申し込み・周知の方法について

木下委員：キャンプやシーカヤックとか、楽しそうな体験活動が並んでいるが、これは、学校を通してではなく、個々で申し込みをしていくということよいのか。

生涯学習課長：申し込みは、子ども会や家族など、それぞれで申し込みいただく形を考えている。

行合委員：この事業の周知方法はどのように行われるのか。

生涯学習課長：周知の方法については、夏休み前に学校を通じて参加募集をかけるほか、ブルーアイランド天草のホームページ、市政だより天草への掲載、子ども会へのチラシの配布などの方法を考えている。

○御所浦や河浦での取組みについて

馬場市長：御所浦でも同じような取組みを行っていたと思うが、今回、ブルーアイランド天草の1つとなった経緯を教えてほしい。

生涯学習課長：御所浦では、これまで御所浦支所を中心にキャンプなど取組まれており、今回は、生涯学習課で天草町のブルーアイランド天草の方を進めることとしている。
今後は、ブルーアイランド天草のカラフルツーリズム会と御所浦のツーリズムで情報共有を図りながら進めたい。
そういう機会を作りながら、両方と一緒にPRする取組みができればと思っている。

行合委員：地元である天草交流センターブルーアイランド天草を活用していただけて非常に嬉しい。
コロナ禍もあって、なかなか利用がなく寂しい思いをしていた。
海も近いし、静かなところで、いろんな体験ができるので、ぜひ活用いただきたい。

木下委員：体験学習とは違うかもしれないが、5月22日の新聞に、河浦中学校3年生の永野さんの記事が載っていた。クルーズ船で寄港した外国の人々へのボランティアガイドの話であった。
勇気を出して声をかけたこと、崎津の良さに改めて気づいたことなど、貴重な経験になり、これから英語の授業や将来に活かしていきたいと書いてあった。
このような様々な体験が子どもたちの心を、人生を豊かにしていくのだと改めて感じた。

馬場市長：クルーズ船の寄港には、県や学校の先生たちにも一生懸命取組んで入れていただいた。
河浦中学校でも力を入れて、子どもたちが英語で対応するという取組みをやってもらったが非常に喜ばれた。子どもたちにとっても自信になったのではないかと思う。
私たちも、その場で来訪された海外の方々に話を聞いたが、世界中を回るなかでも崎津がナンバーワンとおっしゃっていた。
地域住民の方は、おばあちゃんたちとかも簡単な英語や、言葉が通じなくても身振り手振りで気持ちが伝わって、地域の人たちもすごく喜んでいただいた。
おそらく自分たちの地域に対しても自信につながる。来年も来る予定で非常に楽しみ。

○体験学習の取組みについて
池崎委員：キャンプとかの体験はすごくいい。私たちも飯盒炊飯とかしていたが、自分でなんとかする。体験を通じてそういう力を身につけて欲しい。

馬場市長：自分でなんとかするという力、生きる力というのは非常に大事だと思う。
私が思うに、最近の体験、例えば、みかんの収穫体験とか芋掘り体験とか、できあがったものを収穫するだけのものが非常に増えていると感じる。
この前、大江のじゃがじゃが祭りに行ったとき、来場者が楽しそうにじゃがいもを掘つておられたが、実際にその前に植えてから成熟するまでの苦労というのは、地域の人たちが担つておられることを、皆さんにも知つてもらいたいし、学んでいただきたいという気持ちがある。
子どもたちの体験にあたつても、この最初の入り口から最後の収穫までの一連の流れを体験させて欲しいと思う。
きついこと、苦労することも学びだと思うし、難しいかもしれないが、なんか収穫できた、よかったですというだけでは感謝の気持ちは芽生えない気がする。
ぜひ、そのことも体験学習や学校教育の現場では考えていただけたらなと思う。

○学校運営協議会・地域学校協働活動の一体的な推進について
石井教育長：学校運営協議会と地域学校協働活動の話で、地域と一体となって進めるとの話があつたが、天草の場合、本当に県下のモデル地域になるくらいの取組みを生涯学習課の向コーデ

ィネーターを中心に行われている。

昨年度末に、分厚い冊子を作られたが、学校の教育課程で行っている体験学習や地域の人たち、いろんなことをまとめておられ、素晴らしい「体験の島」の「見える化」にもなるのではと、教育委員会の中でも話している。

馬場市長：本日、老人会の総会に出席したが、これから子どもたちの体験をいろんな形で進めるが、その先生や講師になっていただくのは皆さんです。とにかく元気でいて、その知恵を子どもたちに伝えてください、応援してくださいとお願いしてきた。
私は、この体験学習を通じて、天草全体がもっと元気に盛り上がることにつなげたい。
これまで若い人たちにも頑張って欲しいと言ってきたが、働き世代の方々には難しい面もある。
定年退職後などで、元気もある、時間もあるという人たちにまちづくりの主役になっていただき、子どもたちの体験なども一緒にやっていただくことが、みんなの元気につながると思っている。
学校の先生たちも自分たちで全部しようとは考えずに、もっともっと地域にお願いしたらしい。
そうすると先生たちの負担も減るし、地域も盛り上がるのではないかと思う。

石井教育長：生涯学習課では各地域に地域協働活動推進員を配置しており、学校と地域の結びつける役割を果たしている。
その方々は、とても熱心に活動されており、月1回、コーディネーターの定例会を行われている。
この前は、そのグループワークに私も部長も参加したが、今度は校長先生たちも参加されるとよい。他所の地区・学校ではこんなことをやっているのかと共有するのもよいかと思う。

（4）報告事項

①不登校・いじめ問題等の状況について

・資料2により、学校教育課濱田参事から不登校・いじめ問題等の状況を説明。

○不登校について

馬場市長：不登校について、増えてほしくはないが、しっかりと対応していくことが必要。
体験学習の取組みも子どもたちの自己肯定につながり、確実に効果は出てくると思う。

吉森委員：この前、中学校の体育大会があって、みんなで一生懸命応援合戦の演舞をしていた。
資料に、学校が楽しいと感じている子どもたちの割合は9割以上とあるが、誰かの役に立っているという自己有用感というか、あれだけみんなで一生懸命頑張っているのに1割は否定的なのかなと考えると残念な気持ちがある。
私たちのときと比べたら本当に頑張っている。団結していると思うのだが。

馬場市長：ボランティアなども昔に比べて今の子どもたちはすごく頑張っている。
必ず誰かの役に立っているはずだが、褒め方が足りないのだろうか。

木下委員：日本人の自己肯定感は、世界的にみても低い方で、やはり日本文化というか、どうしても押さえつけてしまうとか、褒めてもらえないとか、そういう要因もあるという話を聞いたことがある。もっと褒めてあげるとよいかも知れない。

石井教育長：校長会でも出てくる話で、運動でも目立たない、文化関係でも目立たないような子どもがクラスに一人、二人は必ずいる。
先生たちがそういう子どもたちに気づいて、どのように声をかけるかが学級経営では大切で、そのような子どもに寄り添っていただきたいと伝えている。

○いじめについて

木下委員：不登校の話はよく聞くが、いじめの報告はあまりお聞きしなかったので、こんなに多いのかと感じている。
いじめが発覚した場合、学校ではどのような対応をされるのか。

学校教育課：いじめの件数について、近年は、国の方でも受け手側が辛いと感じることがあれば、いじめとして積極的に認知しようという流れになっている。
件数の増加については、その定義が昔と変わってきたということが理由のひとつである。
学校側の対応としては、担任だったり、それを知った職員が1人で対応するのではなく、あらかじめ定めた情報集約担当者に全ての情報を集め、いじめ対策委員会で対応していく。
みんなの知恵を集め、学校全体の力によって、必要ならば専門機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや我々教育委員会も一緒になって、より大きな枠組みで対応する取組みに変わっている。

木下委員：資料にある「いじめの件数」について、これは全て解決しているということでよいか。

学校教育課：解決したかどうかは、3か月間、経過観察したうえで判断することになる。
まず、3か月が経っていないために判断ができないのがあり、受け手側の子どもがまだ心のどこかにわだかまりがあるという場合は、継続観察期間になる。
ここにある全てが解決したとは言い切れない状況である。

馬場市長：一人で対応すると偏った方向でしか対応できないこともあるかもしれない。
そういう意味では、みんなで知恵を出しあって、みんなで周りを囲んであげることが大事かと思う。

（5）その他

○電子図書館の取組みについて

馬場市長：中央図書館で電子図書館の取組みを進めておられると思うが、現状などについて説明していただきたい。

生涯学習課長：本年度、公開型のプロポーザルにより入札を行うことで準備を進めている。
最終的なシステムの導入は、今年12月までには完了することで予定している。
蔵書については2400冊、導入後も年々増やしていきたいと考えている。
また、システムの導入については、単独でいくか、ほかの自治体と連携するかということを検討中である。

馬場市長：学校現場の中で、子どもたちが端末でみんなが同時に見ることができるような話もあったが、どうなっているか。

生涯学習課長：読み放題パックといって、例えば学生や企業、市民など、全員が同時にアクセスできる図書であり、購入を検討したいと考えている。

馬場市長：学校で授業でも使えるような話があり、2400 冊のうちどれくらいが、そういう図書になるのか教えて欲しい。

生涯学習課：当初では、2400 冊のうち 100 万円分を読み放題パックで導入することを考えている。

内容については、学校や学校教育課の意見も聞きながら進めたいと考えており、企業によって条件が異なるため、詳細はプロポーザルで話を聞きながら選定していくものと考える。

（6）閉会

以上